

# いちご夏秋どりのスリップス防除法

## 1. 試験のねらい

夏秋どりのいちごは、スリップスによる果実食害が問題になる。この時期のスリップスは、世代交代が早く殺虫剤散布回数が多くなる。そこで、殺虫剤散布回数の低減化をねらいとして、防虫網の被覆効果を検討した。

## 2. 試験方法

### (1) 防虫網被覆の効果試験（平成7年度）

供試品種 サマーベリー

防虫網目合 1.04mm、1.40mm、2.10mm、無被覆

定植 4月24日

防虫網被覆期間 6月1日～10月31日

殺虫剤散布 8月1日、9月1日（マラソン乳剤）

### (2) 防虫網被覆の殺虫剤低減化試験（平成8年度）

供試品種 サマーベリー

防虫網被覆 有（目合1.04mm）、無

定植 4月30日

被覆期間 6月1日～10月31日、防虫網被覆区は奇形果防止のためミツバチを放飼

殺虫剤散布 スリップス確認後随時（アセタミプリド水和剤、アクリナトリン水和剤ペルメトリン乳剤の交互散布）

## 3. 試験結果および考察

### (1) 防虫網被覆の効果試験

栽培期間中の最高及び最低気温は、防虫網被覆区が若干高くなる傾向であったが、防虫網の目合間での差はなかった（表-1）。

果実の食害割合は、防虫網無被覆区で極めて高く、防虫網被覆区が低くなり、また、目合間では、目が小さいものほど効果的であった（表-2）。

可販果収量は、果実の食害が少ない被覆区で高くなったが、目合間での差はなかった。

なお、防虫網の被覆は、放花昆虫の侵入がなく受粉が完全でないために奇形果率が高かった（表-3）。

### (2) 防虫網被覆の殺虫剤低減化試験

スリップスの発生は、無被覆区で開花直後に認められたが、被覆区ではやや遅く発生し、また、発生数も少なかった。

殺虫剤散布は、無被覆区ではほぼ毎月実施しなければならなかったが、被覆区では7月のみの実施であった。散布回数は、防虫網の被覆で半減した（表-4）。

可販果収量は、被覆区がやや軟弱な生育経過であったため、着果数少なく、小果となり少なかった。奇形果率は、被覆区がミツバチ放飼効果のため無被覆区に比べ若干少ない傾向であった（表-5）。

## 4. 成果の要約

防虫網の被覆（目合1.04mm）は、スリップスのハウス内侵入を抑制し、また、殺虫剤散布回数を半減することができる。なお、防虫網被覆時は、奇形果防止のため、放花昆虫の放飼が必要になる。

（担当者 黒磯分場 吉原 泉）

表一 1 気温の推移 (平成7年度)

目 合 (mm)	気 温 (℃)	6 月 (下旬)	7 月	8 月	9 月	期 間 平 均
無被覆	最高	25.4	29.9	32.0	24.3	27.7
	最低	15.1	19.8	21.1	14.5	17.1
1.04	最高	25.3	31.0	32.6	24.8	28.1
	最低	15.4	20.4	21.8	15.5	17.8
1.40	最高	25.6	30.7	33.2	25.1	28.8
	最低	15.4	20.2	21.7	15.0	17.4
2.10	最高	25.4	30.9	32.5	25.2	28.3
	最低	15.9	20.8	22.2	15.6	18.1

表一 2 果実の食害割合 (平成7年度)

目 合 (mm)	7 月			8 月			9 月			10 月			全期間 平 均
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
無被覆	84	95	85	70	38	100	100	43	27	60	58	27	68
1.04	0	5	32	32	0	92	100	27	2	34	38	38	35
1.04	0	13	63	47	0	9	100	30	9	48	43	25	44
2.10	5	7	47	27	4	98	100	41	7	47	55	29	49

割合は全収穫果数(奇形果を除く)に対する食害果数(%)

表一 3 可販果収量及び奇形果率 (平成7年度)

目 合 (mm)	可 販 果 収 量 (kg/a)					奇 形 果 率 (%)				
	7月	8月	9月	10月	合 計	7月	8月	9月	10月	平 均
無被覆	6.9	10.5	9.4	38.4	65.2	23	45	46	16	31
1.04	49.4	20.9	12.3	23.5	106.1	61	58	47	42	52
1.40	56.1	14.7	9.2	27.6	107.6	55	61	50	39	50
2.10	47.8	26.5	9.3	23.2	106.8	51	54	48	40	48

注1 可販果収量はスリップス食害果を除いた値

2 奇形果率は全収穫果数に対する値

表一 4 殺虫剤散布回数 (平成8年度)

防虫網被覆	6月	7月	8月	9月	10月	合 計
被 覆 区	0	3	0	0	0	3
無 被 覆 区	1	3	3	1	0	8

殺虫剤散布時期はスリップスが1花当たり2頭以上になった時

表一 5 収量、着果数、1果重平均及び奇形果率 (平成8年度)

防虫網 被 覆	可 販 果 (kg/a)					着果数 個/株	1果重 平均g	奇形果率 %
	7月	8月	9月	10月	合 計			
被 覆 区	76.3	31.9	64.5	54.5	227.2	43.9	10.2	23.9
無 被 覆 区	82.9	42.8	58.9	81.5	266.1	51.9	10.9	29.5